

とを至上とすることです。そこに īΕ

て考えられ、美しさときびしさを 体が人間の極めて文化的行動とし 常任理事

入った。近代国家の発展とその矛 盾の中で、物質生活は豊かになり を利用し、克服するようになった 自然の制約を受けながらも、それ 物を利用し、いわば人間は他の生 土を耕やし、家畜を飼いはじめ、 ていた。約一万年前から、人間は 物と同じく自然の一部を形づくっ いわば人間と自然の対立の時代に そのプラス面と共に、遭難あるい は山地であり、あらゆる形態の登 はマナーの低下、自然破壊などと ーツとして拡まってきた今日では のであった登山がより大衆的スポ れてきた。特に一部エリートのも 兼ねたスポーッとして位置づけら 山活動に適し、四委の変化や気象 いうマイナス面を内在している。 日本は地形的にみても、八十% ものへの期待感、自己の限界への は当然、自然への憧憬、未知なる 係を追求する考えからきている。 中で、人間と自然との直接の力関 ないからに…」というロマンチシ ている。「オレ達や、街には住め 含み、非常に純粋である反面、観 排戦、自己に対する満足感などを 明治以降のアルピニズムの流れの ズムも持ち合わせている。これは 念的な考え方やヒロイズムが付い

生活は豊かになったが、逆に私た 題になってきた。文明が進み物質 た環境破壊・公害が大きな社会問 かってはあまり問題とされなかっ より積極的に自然をつくりかえ、 が自然に接し、自然の中にとけ込

ちは直接的には自然から離れてし

もうとする本能的動作に大きなプ

岳に講をつくって登ったり、食料 使われ、のちになると富士山や御 会図の場となり、峠は要路として

きびしさ、苦しさ、挫折感を要求 する。私は登山というのは、人間 しさ、満足感を与えると同時に、 の複雑さは、登山者に美しさ、楽

であり、戦国の世は、砦や見張り

つきは、古くは山岳仏教の修道場

一方、山と人間の歴史的な結び

なおさらであり、休日に縁を求め 間の本能的な行動かも知れませた。一つは例の登山家マロリーの言と や縁地帯を作ったりするのは、人 て山野に出かけたり、都市に公園(ろうか。山に登る理由づけとして) まってきている。都市のコンクリ゛ラスアルファが加わったものと思 -トと自動車に囲まれた生活では います。 次の二つの考えがあると思います。 では人間は何故に山に登るのだ ついており、今日のスポーツ登山 燃料を得る場であったり、山は何 らかのかたちで生産や生活と結び

自然の一つである山と人間との 伝えられる「何故ならばそこに山 とは異質のものでした。 時には仕事をさいてギリギリの時 山の人々を山へ向わせましたが、 戦後、大衆化された登山は、

> うことにあると思う。 して活動するエネルギーをつちか 明日への活力を養い、他人と協力 する立場から山に登ることにより で、時間を生み出し、余暇を活用 以上の二つの考えを合わせると あつてほしい。 います。これらも 大いに山に登 以上のような大きな意味をもって いう考えであっても、客観的には いるはずです。好きだから登ると り、息の長い登山者、登山活動で

故に山に登るかという大命題の第 なものであってほしいと思う。何

一の考えは、複雑化した社会の中

よい方向に動かす力をたくわえて エネルギーを私たちの社会をより なり、積極的には、つちかわれた

尾瀬美化運働

尾瀬

岩登り満習会 榛名

苦しみを経て、心身共に張りが出 然に接し、登山したごとの喜びと をつくり、心と身体をきたえ、自 山というのは、基本的には、

仕事や学業に精を出せるよう

を保持することで社会にプラスに

山に登ることは消極的には健康

う意義を持っています。スポーツ な社会をつくる構成員になるとい しい心と身体を持ち、健康で幸福 体力を養成、保持、発達させると 登山というのは、私たちの健康 能力を要求する。ヒマラヤの高峰 生れます。登山は人間に多方面の 登山を通して、力や喜びや勇気が いう必要性とさらに進んで、すばら われた。新しく少年少女が加わり 八、一九日両日、谷川岳周辺で行 国体選手選衠会報告 今年の国体選手選衡会は六月一

頭と身体と社会の結合の結果です。 が次々に登頂されたのは、人間の 豊かな生活や幸福な社会をつく スをとり、途中に五~六個の地点 行われた。読図は約四キロのコー けて行なわれ、少年組は一日目読 成年男子、少年男子の三部門に分 くばった地図にその地点を直径一 図、生活技術などを中心に審査が

図作成など多方面からのチエック 気図の作成、ペーパーテスト、概念 上部へと、体力、負荷力その他天 田尻尾根をへて熊穴沢からさらに をとった。二日目、成年組と共に ミリぐらいの点で記入させる方法

がなされ、次の人たちが予選を通 田中宏 (中ノ条)・堀米幸二(登 て使う接尾語です。万葉集の上野 味で、呂は親愛、感動の念をこめ る言葉で、嶺は、山々、峰々の意 れており、群馬岳連の会報の名に 国の歌の中に「久呂保の嶺呂」 (榛名山)などという風に使用さ (赤城山) とか、「伊香保の嶺呂

のが社会の進歩であり、

私たちの

しているし、それらをかえていく

義務である。

八:二〇日天気図講習会 体協 日日 会報十一号発行 全国遭対協 二日間 理事会 体協会館 救助隊訓練 谷川岳山開きパト 一ノ倉

会員登録を 昨年まで二年毎に登録を更新 行なって下さ

行され、会報が会員登録数に応じ 登録されますと、身分証明証が発 て配布されます。 となります。

毎に改正され、登録料は年二百円

ていた会員登録は、今年から一年

をポスト地点として設け、各自に なりますので念のため、お知らせ 致します。 山でも、センターの調査が厳しく 救助隊員の認定、海外登山の推薦 ないと、講習会の参加や、指導目 からけられなくなり、尚谷川岳登 今後は、会員登録を行なってい

頌呂とは、万葉集の中に出てく

少年男女組とも、丹沢山塊でのブ 高会) 西原一美(富士重工)なお

ロック子選があります。

い、自己の足で目標を達成するこ たようだ。しかし大衆化された登 山として非難をうけるはめになっ 周囲にはまだ不合理や矛盾が存在 人間は幸福になれない。私たちの

人でなければいけない。

逃避的登山は、人を社会からな

する人間は、同時に人間を愛する

り、選手として内定した。

よりよい社会生活が生れ、山を愛

より進歩したアルピニズムにより

びや未来への展望をひらきたい。 さときびしさを知り、明日への喜 み・書き・考え」、山の真の美し として、「歩き、学び・語り・読 り出すために、私たちは山を対象

ムの発生と共に、山に登ること自 象であった山は、近代アルピニズ

と身体をきたえ、大自然にたち向

方です。一個の無力な人間が、心 があるからだ」に代表される考え

かえって疲労が残ったり、無暴登 間で往復する神風登山を助長し

は食料獲得の場であり、信仰の対

ながりを考えてみると、かって

絶縁してしまう。山の中だけでは

者は浜名会長です。 ふさわしいものに思います。命名 の表彰を行なった。 れた。尚、

遭難防止については、

チームワークなどに効果が認めら

永年隊員(五年以上)

巾な繰り越し金を出すに至った。 かったが、財政事情が好転し、大

会計監查報告

た訓練を四回行ない、技術の向上、

当初赤字予算を組まざるをえな

月一七日

高体連指導者講習会

いものと判断される。現在会の総 川で発見され、遺体の発見も問近 捜索は、ダミーとスコップが白萩

剣岳小窓尾根に於ける遭難者の 桐生山岳会 赤石副会長

昭和51年度収支決算書

笞 貊

47,631

47,631

461,600

113,000

232,000

5,000 116,400

928,000

720,000

30,000

35,000

40,000

85,000

18,000

額

袖

Δ

力をあげて捜索を行なっていると

介

金

費

金

費

費

費

費

金

費

未 収 金 交付金・補助金

付

収

計

型

議

務

扣

備

ころである。

会報十三号発行 冬山合宿反省会

遭難対策では救助隊を中心とし

て消化することが出来た。

計画した行事については、

すべ

れました。

五十年度会計報告

五十一年度事業報告

の実施とか、関東地区岳連総会 全国遭対協への参加などが行なわ

土一月

冬山合宿検討会

月十一日

外技術研究会

十一月

実技講習会 赤城山

うので多数の参加を望む

また各コースのパトロールを行な 山と、ゴミ持ち帰りを呼びかける。

īΕ

0

0

60 300

29,000

177,000

95,000 17,749

,951

正

98,540

9,000

4,000

4,000

2,000 7,000

会報十二号発行

救助隊訓練

その他では、日山協の補助事業

の協力を得て成果をあげることが 中及び山開き当日には、会員多数 中心にパトロールを実施し、連休

ことを報告します。

點事

堀江登志夫

救助隊結団式五三年

べて完備しており、正確であった

書類上の監査を行なったが、す

三月

高体連リーダー講習会 救助隊員公募 **氷雪技術講習会**

第四回海外技術研究会

るが、転落した雪溪で水筒を発見の捜索は、毎週の様に実施してい には発見出来るものと考えている。した。残雪の状態から七月中旬頃

> 収 入

繰

赤

会

寄

支 出 の 部

事

会

事

旅負

子

穂高吊尾根から転落した遭難者

伊勢崎山岳会 堀江会長

浜名会長を選出

究が進められた。

計画が具体化するところまで研 海外登山については、五十三年

十月十二日

理事会

||谷川岳山開きパトロール

七月三日の山開き当日、安全登

二~八日

青森国体 八甲田山

陳長選出

いことを願う。

によって、この様な事故の起らな とは残念で、今後はお互いの努力

のと感謝申し上げる。

果を納め、関係者の努心のたまも 少年共に、一、二位に入賞する成

八月

尾瀬美化運動

岩登り講習会

って活発となり、敬意を表する次

ついては万全を期したい。 まったが、この面での安全対策に

国体関係は、佐賀国体で成年

大言

天気図講習会

会報十一号発行

致で承認される。

尚細部については常任理事会に

済 額

47,631

47,631

84,000

409,000

100,000

98,651

出済額

646,860

39,000

31,000

87,000

25,000

0

092 951

300

救助隊訓練 谷川岳山開き

中成幸(群馬登高会)を任命する 員会を設置する件及び、隊長に田

件の二点について提案あり、満場

缶連の活動も関係者の努力によ

のうちに散会しました。

山技術のレベルアップに貢献して

古一三日

理事会

三日

全国山岳遭対協議会

得てありますが、この場で実行委

るに当り、すでに理事会で承認を のギャチュン・カン峰遠征登山す

海外登山研究会で、五十三年度 海外登山の実施について

年々内容の向上が見られ、

登

六月二六日

総会 国体予選会

いる。講習会で事故が発生してし

よる慰親会が催され、和気合々

終了後はほとんどの参加者

指導員会の講習会は六回実施さ

六月八・一台

第である。しかし今冬は、二件の

遭難事故を発生させてしまったこ

六月二十六日午后、県民会館に

於いて、五十二年度の岳連総会が 五二年度事業計画決まる 出来た。

年度の事業計画案と予算案につい

三回発行され、岳連会員の情報提

会報の発行は、第七~九号まで

五月連休中

谷川岳パトロール

三日

救助隊員訓練 雪上技術講習会

一特別審議事項提案

石井理事長

般対象救助訓練

供と、交流の場として役立ってい

度の事業及び決算報告と、五十三

て審議されました。

総会の冒頭、浜名会長の挨拶が

開催された。当日の参加団体二十

三。参加者四十五名で、五十一年

があがってきている。

び尾瀬にて行なったが、年々成果

五日

実践救急法講習会

会報十号発行

美化運動については、 谷川岳及 四月一三日 的向上を計りたい。

事業計画は前年度並だが、

内容

|増えたが、遭対関係に寄附金の

予算の主体である事業費が大山

五十二年度事業計画

四

五十二年度予算案

吉田事務局長

272,000

り、苦しい子算となっている。 海外のように減額された部門もあ たためであり、実質的には、指導 体助成金を国体部予算に組み入れ 十万円を充当、また体協からの国 昭和52年度予算

928,000

の部 አ

1X /\ \(\frac{1}{2}\) fill									
1	料	目	予	算	額	前年	度予算額	比	較 増 減
繰	越	金		216,	460	\triangle	47,631		264,091
会		費		444,	000		461,600	Δ	17,600
未	収	金		82,	000		113,000	Δ	31,000
交1	付金・神		409,	000		232,000		177,000	
寄	付	金		5,	000		5,000		0
雑	収	入		43,	540		116,400	Δ	72,860
赤	字 充	当 金			0		47,631	Δ	47,631

200,000

支出の部

科		目	子 算 額	前年度予算額	比較增減
事	業	費	960,000	720,000	240,000
숲	譲	費	40,000	30,000	10,000
事	務	費	35,000	35,000	0
旅		費	40,000	40,000	0
負	担	仓	87,000	85,000	2,000
予	備	費	38,000	18,000	20,000
	計		1,200,000	928,000	272,000

大型写真パネル • せんか でパネ

前橋市総社町植野 225 0272 - 51 - 0206TEL

井 山とスキ

> 伊勢崎市中央町18番8号 -25TEL -02720270

岳連会員特別価格にて奉仕させて

積み荷から米が零れているのを身

レテの付近で隊商に会う。馬の

言葉と鋭い視線が行きかい、自分

はと見れば相方の顔をかわるがわ

を許可した。

右 に左に揺れる機体の中から、

これからも機会があれば、他の講

好きになってしまいました。 とても勉強になりいっぺんで山が

習会などに参加させていただきた

いと思います。

効いたのか、係員は渋い顔で搭乗 ましたが、コーチや他の研修生に

基礎からていねいに指導を受けて

の感違いにあったのだが。きつい

での所要経費を払えと言ったのが

という気持で受けさせていただき

ブルがあった。事の発端は自分達

ミニバスと大型バスの件でトラ

たのに、今日は朝から騒々しい。

求め、ゆったりとした一日を過し

二十五日、昨日ポカラに休日を

ェピークがある一日だった。

十七日、振り返ると常にトクチ

かな浮世絵が描かれていた。 本製のカレンダー、どの紙も艶や 走になった。主の見せてくれた日 いうトクチェの民家でお茶を御馳

振り、

手振りで一苦労しながら教

も知っていたし、片言の日本語も

けばいいと勧めてくれる人もいた

ジョムソンを後に元来た道を

十月十六日、ムクチナートへ行

途中、ポーターの知り合いだと



の歌を歌うのには閉口した。 話せたが、日本人と見れば桃太郎

に戻った。話の種に一度温泉に入

ダナから一時間半程でタトパニ

草の感触が柔かで気持がいい。あ

ながら歩く。素足になってみた。

二十三日、畦はんを適当に拾い

やっと来月の一日に乗れるように

研修内容は初めの二日間、氷雪

プモリ

いうのだ。

売り込んできた。 次のプランには 登りながら、ポーターがしきりに

二十二日、チャンドラコットへ

をくれと頼まれた。投薬を希望す

ス・ヒマラヤへ行って、ルクラま

仕事はといえば唯一つ、トラン

ノーダラ近くの村で、老人に夢

潔にしないのか?泥だらけの化膿 る位だったら、なぜもっと足を清

した足を見ながら、やりきれない

会社の人は毎日「明日、来て下さ

春山研修会が行なわれ、それに参 高会、太間々、境、

修所において一般山岳団体指導者

参加団体、桐生、沼田、雪氷、登

七日間、立山にある文部省登山研

でした。

参加した皆さん、どうもご苦労様

五月二七日より六月二日までの

群馬岳友会

堀口誠

い。」と言う。四日間通い続けて、

加させていただきました。

伊勢崎、ミヤマ、むすび、高崎、

独峰、富士、

電話でもまにあうような事なのに での飛行機の切符を入手するだけ。

(3) 第 11

(7154 m)

ク

ったが、本当は私達に手をやいた カブレ村は通過し、暗くなるころ。で、足元にはカリガンダキが流れ、 あるという新しいポーターは料理 やっとダナに着いた。 くれる人に変えた為らしかった。 シェルパが、自分の能力を補って 賃金精算をしてくれとシェルパが が行きかう静かな村だ。 ラとかいう野菜があり、 言ってきた。病気のためと彼は言 幾つかの日本隊で働いたことが 村人の異様な目つきが気になる 十八日、ポーターを変えるから みかんやレモンが実り、ギラム 庭には螢 だった。 た。 作戦に負け、シーカに泊った。 殿の恋人らしい娘の強引な引止め 朝遅く出発。 寂しそうな宿の主人に見送られて にしてきた。 周りはマリーゴールドが花ざかり かけてみた。田ん圃中の露天風呂 に出かけ、たくさんの収穫物を手 ろうと、夕立が来たのを機会に出 二十日、夫が日本に帰っていて 翌日は停滞。連れは蝶々の採集 二時間もすると、我がシェルパ 夕やけの中のダウラギリの峰々 る見つめるきり能がない。生存競

感じた。

のを見た時、宿に着いて電燈がつ

、のを確かめた時、都会だなあと

ポカラに着いて車の走っている

少ない。

の国では危険物も日本よりずっと

その横は利尻ポン山風の小さい山。 アンナブルナの山々だとポーター が実に雄大だ。隣にトクチェピーク 争の激しい社会だ。 髙度計を見に何人かが寄って来た。て、疲れている体を乗車させた。 尾根上に、白い山が次々に頭を出 して来た。ニルギリ南峰、そして 夕方ツケジュンガに着いたら、 二十一日、登るに連れ、左側の

彼をシェルパ として使ってくれと にしてよ。」と言いたい心を押さえ クシーの運転手がいつも5ルビー は到着した。客待ちをしていたタ 山に近づけない行程だった。 ー区間の宿までの道を15ルビーな ンズのバスターミナルに大型バス ら行くという。「もういいかげん 二十六日、今日からまた単調な 延々十時間半もかけて、カトマ 一つのトレッキングが終った。 山と日本で騒いでいた割には 様な空港、人も牛も出入り自由で で止まったような着陸だった。 広さは3h位、まるで地表の凹凸 リ・サンカール(七一四五m)が美しい。 れて、空港でシェルパを一人雇っ い山、明日から飽きる程、目にす 出した。耳慣れた山々、大きな白 ることができるのだ。 た。又、見知らぬ地域へ一歩踏み った。 写真撮影をする人々。左手にガウ きれいな英語にころころ乗せら 春山研修会参加報告 パイロットの目測だけが頼りの

きは、二千五百名の登山者で賑わ

数年ぶりの天侯に恵まれた山間

谷川岳山開きパトロー

き缶もあき瓶も大切にしているこ うと二回目はエベレスト街道を選 んだ。 なった。 は飛べないと言われた。そんなこ 時間も待たされた末、係員に今日 斡旋依頼は避けた。 ない方がいいとエージェントへの シェルパは気があわないのなら居 ャンセルされるなら、次の出発ま どん通過していくではないか。キ とはない。他の乗客の荷物はどん 富士山より高い所へ行ってみよ 十一月一日、国内線待合室で三 食料は調味料を少しだけ持ち、 望気に重点を置いて天気予測した 雪上の歩行技術、登はん技術や生 山の危険とリーダーシップ等の識 活技術、危急時対策等を学びまし したが、むしろ上層天気図と観天 で地上天気図が重要視されがちで 議、実習を受けました。興味ある があり、研修というよりも講習会 た。経験の薄い私など場違いの咸 して、その周辺で班別行動にて ほうが良いという話でした。 こととして天気子報では、いまま 技術、救急法、春山気象と天気図 実技として五日間、剣沢に入山

と、水戸山岳協会五十名の人達と

前夜より各会から参加した人達

を行ない、安全登山を呼びかけた

共に、記念パッチとゴミ袋の配布

その後は、各コースのバトロール

を実施しました。

前橋市城東町3-1-1(上電プラザ内) (32)6 1

記念品

崎市上中居町 1 3 8 2 0273 52 0970代

遭難救助に関する知識と実

〇スノーボートによる引き上げ、

「雪上における搬出」

(雷鳥沢)

ての資算の向上を図る。 技の指導法を研修し、指導者とし

Ш 岳遭

期日

()助指

救

導者

修会報告

沢出合付近で雪上技術講習会が行 ンプ地や集合地までの交通経路を 五月二十二日、一ノ倉沢、、

雪上技術講習会 二ノ 参加者が六〇〇名をこえ、キャ

大会子 持山小野子山周辺

天気図講習会

(大いに遠慮申し上げたのだが)近

昼近かったので請われるままに

導委員会が主催する天気図講習会 が体協会館の二部屋を使って開か れ、各山岳会員の他、指導員の研 七月一八(月)、二〇(水)の両日、指 割バシより太い)と、収穫したば かりの新ジヤガをたらふくご馳走 になった。 くの会員宅でウドン(梅田名物で

気圧の位置や動きからの天気の判 た天気図を読むことに中心がおか れ、等圧線の引き方、高気圧、低 末永く発展することを祈ります

断、各地の気圧や気温の記入の重

い。また、場所を提供してくれる にはゴクロウサマと云う以外にな まった編集会議、編集委員の方達 をかけ、誠に恐縮のかぎりである。 太田さんの家族にまで大変お世話 今夜もついに十二時を廻ってし

る記事を集めることが大事。 いのだが、とにかく読んでもらえ んに読んでもらえれば苦にならな こんな苦労も会報が会員の皆さ

頼された原稿は期日までに必らず 係まで提出して下さい。 K 皆さん方しだいと云うことで、 要は、原稿を提供してくれる

キヤッチと原稿作成が難しい。 ら担当しているわけですが、特に 救助隊活動関係の記事をもっぱ

筈の人達は、桐生山岳会〇B会の ているところで、見たことが有る がそろって畑の手入れに汗を流し らず、どこかで見たことの有る顔 小山さん、(この大人が山登りが趣 いてくれ。」と川辺キャップの命令 に原稿作成は、「何行で何字で書

固いきずなの桐山OB会 の遺体が一三日、収容されました。 奥穂高で遭難した、栗原栄一君

項を学習しょうという行事です。 採りの団体かと思いきや、さにあ 道で、数十名からの家族でれ大集 団にゆき逢った。 季節がら山菜 過ぐる日、桐生川源流に近い山

裏妙義の遭難救助に協力

体を発見し、遺族に引渡した。遭 参加し、三十日桶木沢左股にて遺 大、藤岡、独峰の各会から捜索に 区の登高会、カモシカ、高崎、経 丘会を始め、岳連関係では高崎地 トの篭沢を登って谷急山方面に行 難者は国民宿舎に泊り、一般ルー 遭難事故が発生し、地元松井田山 去る六月二十七日、裏妙義山で

尾根から転落したと思われる。

大集団であった。

く予定であったが、コースを誤り

十数名のOBとその家族数十名の えられた字数でピタリとおさまっ

た時、帰って飲む酒が気持酔う

Bとに片足づつかけて頑張る、樋 味とは不自然な)を始め現役とO

紙をにらみつけ、ソロリソロリと

で、上を見上げて考えて、原稿用

ベンを走らせる。一っの記事が与

ロジヤパニーズ、 シエルバなど、

講師 七名、参加者四十名を、初

今年は大原キヤンプ場をベースと

どうするかが大きな悩みでもある。

し、子持、小野子、十二ガ岳の両

加があり盛会でした。

初級クラスはテープにとった天

修会も兼ねており、約五〇名の参

今冬不幸にも、事故を起こして

員となった者の救助訓練を実施し 五月二十九日、黒岩で今年新隊 に分け、各班の講師の他に、指導 心者、初級者、リーダー養成の班

ました。救助隊の任期は四月一日 員の検定を受ける人が補助につい

から翌年三月三十一日までの一年 て、雪上歩行、アイゼン技術、滑

間で、年三回の訓練を実施してお ンテニアス、グリセード等の技術 落停止、カッティング、確保、コ

> 変化のある日程の中で無事終った。 は晴天、三日目は土砂降りという 関東大会への予選を兼ね、前二日 方へ登るコースをとった。全国

じまり、中級クラスは自己が書い 気図を書くという基本練習からは

確信しました。

な力となって、会を 支えていると く結ばれた、OB会の存在は大き しまったが、このよなきずなで固

六月三、四日 夏山指導者講習

登山部顧門の研修会で、浅目

第一日曜日の谷川岳山開きの日に りました。第一回の訓練は、七月 を習得しました。

○人工呼吸、心臓マッサージ、他 「岩場における救出」(浄土山) ウインチ、ブレーキディスク・ワ に遭難が発生した時に新隊員は、 通常実施したわけですが、この間 良い場所がとれなかった事等あり、伸ばした。雪田も多く、中にはス り、他県の山岳会の講習会があり に集まり、平標、仙ノ倉へと足を 朝のうち天侯がぐづついていた。スキー場近くの前工OB会山の家

(立山ロッギ) とになるためと、経験隊員と新隊 救助技術を本番でいきなりやるこ な意見が出されました。 ミーティングを行ない、いろいろ の講習や炊事実習を加え、交流を

イヤーなどの救助装備の取り扱、

ましたが、下山後一ノ倉沢出合で キーをかつぎあげた者もおり読図

救助活動に関しては研修会を開く。

「救助隊の編成とリーダーシップ

研究協議

〇その他

を養成し、正しい登山技術の修得 に問題があり 日山協では指導者

〇アルペンスキュー

○懸垂下降による引降し

について」 講師 野村哲也

りそれは遭難予防と救助である。

遭難の多くは、その者の登山技術

について」 講師 沢木勇二

○雪崩遭難の場合のゾンデーレン ○負傷者を背負った場合の引上げ

遭難対策には、二つの要素が有

講義内容「遭難対策の基本的諸問

救助組織の運営と活動上の問題 員との技術の差が救助隊の技術ア

とめてみると、弊察官としては、 察官と民間人になるが、意見をま 今回の参加者は、大別すると警 らを解消するために特訓しました。 ある隊員は、「あまり多くのこと ップに支障をきたしており、これ

> 行に生かしてもらいたいものです。 に自分のものとし、これからの山

会 伊工 恒例の行事で各校から

七月十七日 夏山合宿計画検討

持ち寄った計画概要を交換しなが

ら、情報交換、アドバイスをしあ

受講者は、これらの技術を確実

二日間であった。

交えた山行は、大いに意義がある

の大谷清・村上泰賢両氏が担当し な講習内容でした。講師は高体連 ど、夏山シーズンを迎え、実践的 要性やそれらによる天気の推定な

望ましい(地形に詳しく現場に早

編成は地元救助組織に任せるのが

遭難が発生した場合の救助隊の

点について」

くいける) 遭難者側は簡単な手

伝い程度でよい

「遭難事故の事例を問題点につい

移動が多く技術が追いつけない、 か自信がついた。」と言っていま を頭に入れたので……。でも何と

他の担当警察官の理解がない、な 補償金パ多いものとしては、長野(出動) に備えておかなければなら「的な山の成因などについての講習 身分保障の問題が多く出された。 どである。民間人の意見としては 救助技術をマスターして、「いざ、 した。救助隊員は、あらゆる遭難

馬の子持、小野子山の成因や一般 本年は山の地質について、特に群

四月二十九日座学講習会 伊工

いながら、あわせて夏山の基本事

を中心にし、高校生一八○が参加

万円) 北海道 (五〇〇万円 11一七、〇万円)神奈川(一〇〇〇

いる人々が集まり、その地域の山 日本全国より遭難救助に関係して との交流が出来て、大変楽しい 五 参考になり、また、各地の山仲間 々にあった救助方法を知り、大変 感想 今回の研修会に参加して

○滑車による引き上げ(滑車2) の山仲間のために少しでも役立て 日間でした。今後の岳連や、多く

昭和52年7月15日

○ウインチによる引き上げ、引き ば幸いと思います。

などを詳しく知っており、手続逐

スでは民間機の利用が多く、気流 野県の事例で紹介する。北アルプ

ヘリコプターによる救助を、長

実技 参加者の技術経験などによ 機がない場合のみ利用する。 も簡単である。自衛隊機は、民間

り七班に分けて行なう。

○懸垂下降による引き降し 〇片手懸垂下降 「人工岩場における救助」